



紫雲児の心

人はなぜ学ぶのか？【1月9日 3学期始業式校長講話より】

校長 五十嵐 めぐみ

元日の夕方に発生した能登半島地震では、石川県を中心に甚大な被害がありました。新潟県内でも、上越市で津波が川を遡って被害が出たり、新潟市内では液状化現象で道路がひび割れ陥没し、建物が倒壊したり傾くなどの被害が出ました。新潟市の中学校では、校舎が使えず小学校に間借りして授業するところもあります。新発田市でも津波警報が出され、藤塚浜全域に避難指示が出て、紫雲寺中にも約70名の住民が避難してきました。幸い大きな余震や被害もなく、夜8時半頃までに全避難者が帰宅できたのは何よりでした。私は自宅で大きな揺れを感じ、すぐ学校に向かいました。駐車場に着くと、すでに近くに住む市の避難所担当の職員の方が到着しており、体育館を開けてジェットヒーターを点けていてくれました。私も手伝いながら避難所の準備をしていたら、以前私が教頭として勤務していた頃の紫雲寺中の卒業生に会いました。自分は公務員になったので避難所を手伝うのだと言い、「何か手伝うことはありませんか？」と率先して行動する姿を見て、大変頼もしく感じました。地震などの自然災害は防ぎようがありませんが、万一の時に自分はどうか行動すれば良いかを日ごろから考えておくことが大切だと、改めて感じました。また、それと同時に、全校生徒がそろって自分の学校の体育館で始業式ができるという、当たり前前の日常の大切さとありがたさを感じ、一日一日をしっかりと生きなければと痛感した年明けでした。

話は変わりますが、人はなぜ学ぶのでしょうか？私は、幸せになるためだと思います。学ばなくても生きていけますが、学ぶことでより良く生きられる、つまり幸せになれる。高校や大学進学のため、良い仕事に就くために学ぶのだという意見もあるでしょうが、高校も大学も通過点に過ぎません。どこへ進学しても、就職しても、自分で考え、判断しなければならないことは数多くあります。そんな時に、それまで学んできた知識や技能、学び方や学ぶ姿勢そのものが役に立ちます。また、世の中を生きていくうえで最低限必要な「読み・書き・そろばん」と言われる基礎学力がないと、悪い人に騙されるかもしれません。幸せに生きるためには、学ぶことが大切なのです。

昨年11月に、3年生2クラスの国語の公開授業がありました。授業を参観された他校の先生の中には「県内トップクラスの学び方ですね。」と言ってくださった方もおられ、3年生全員が課題の解決に向けて主体的に学んでいると、多くの方に誉められました。3年生はこの時だけでなく、普段の授業でも主体的に考え、仲間と協力して学習しています。「先生に言われるから」「親がうるさいから」仕方なく勉強するのではなく、自分で課題を見付け、その解決に向けてじっくり考え、仲間と意見を交わしながら考えを深める学び方は、今後、様々な困難にぶつかった時、それを乗り越える力になるはずです。

3年生は間もなく受験ですが、受験の試験範囲は中学校の学習内容すべてです。中学校の学習は入学した時から3年間かけて行い、小学校の学習内容がわかっているという前提で進みます。3年生は中学校の学習がほぼ終わり、2年生もあと1年、1年生も中学校1年生の学習の3分の2が終わりました。これまで学習したことは身に付いていますか？冬休みに学習会に参加した人、自分で家で復習した人とそれぞれですが、復習は早ければ早いほど効果が期待できます。心配な人は一刻も早く復習し、学習内容をできるだけ身に付けて次の学年に上がれるようにしましょう。

学ぶことは幸せに生きていくために大切です。3学期はこれまでの学習の総仕上げの時期です。受験を目前に控えた3年生はもちろん、1・2年生も3年生になって慌てなくて済むように、一日一日の授業や家庭学習を大切にして、学習に全力で取り組む3学期にしてください。